

町内で行われたイベントや学校行事、町の出来事などを紹介します。

## 感謝の気持ちを込めて

### やまもと夢いちごの郷「ふれあい市」

爽やかな晴天に恵まれた6月2日、農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」で「ふれあい市(※)」が開催されました。

このふれあい市は、特産品である「いちご」がシーズン最終盤を迎えるにあたり、連日の盛況と日ごろのご愛顧に感謝の気持ちを込め、開催されたものです。

店内は、格安の感謝価格で販売された「完熟いちご」のほか、旬の採れたて野菜や新鮮な魚介類などを買い求める方々で大変にぎわいました。また、お買上げ額1,000円ごとに抽選ができる「お楽しみ抽選会」も行われ、やまもと夢いちごの郷友の会の会員が提供した地場産品などが景品として進呈されました。

このほか、イベント広場への出店や子どもたちへの水ヨーヨープレゼントコーナーも設けられ、会場にはたくさんの笑顔があふれていました。

主催した(株)やまもと地域振興公社の馬場支配人は「皆さんに楽しんでいただけてうれしい。いちごを含む3大特産品の端境期となるこれからが厳しい時期となるが、イベント開催などを通じ誘客に努めたい」と話していました。



▲感謝を込めた抽選会



▲子どもたちも喜んでくれました

※「ふれあい市」の名称は、昨年まで農産物直売所「夢いちごの郷」で同時期に開催されていた「ふれあい市」の名称を引き継いでいます。

## 未来につなぐ森づくり

### 第5回たねぷろじえくと植樹祭

6月9日、町内の海岸防災林再生地などを会場に「第5回たねぷろじえくと植樹祭」が開催され、坂元小学校児童12人のほか、白石第二小学校と長野県上田市の塩田西小学校の児童、亘理高校と白石高校の生徒など約110人が参加し、植樹祭を行いました。

平成25年から始まったこのプロジェクトは、東日本大震災の津波で被害を受けた本町に豊かな森がよみがえることを願い、町内や白石市、蔵王町で集めたどんぐりから苗木を育て、約3年後に植栽するプロジェクトで、今年で5回目の開催になりました。

当日は、本プロジェクトの代表を務める長野大学の高橋一秋教授と学生の皆さんの指導のもと、世代や地域を超えて参加者同士が協力しながら、コナラとクヌギの苗木約30株を植えました。

初めて参加した坂元小学校6年の山内優梨さん(中山区)は「たねぷろじえくとでは、こんなにすばらしい活動をしているんだなと思いました」と感想を述べました。



▲大きく育つように心をこめて苗を植えました



▲天候にも恵まれて心地よい汗を流しました



## 全線開通のお知らせ

青森県八戸市⇄福島県相馬市間を1本の道でつなぐ  
1,000kmを超える国内最長のロングトレイル

### みちのく潮風トレイルとは?

青森県八戸市から福島県相馬市までの4県28市町村にまたがる「みちのく潮風トレイル」は、東日本大震災後、環境省の「グリーン復興プロジェクト」のひとつとして進められ、自然の恵みや東日本大震災の教訓を学びつつ、それらを活用し復興を後押しすることを目的にルートが設定されました。

このルート設定が完了し、6月9日、名取市文化会館において「全線開通記念式典・シンポジウム」が開催され、原田環境大臣による全線開通宣言がなされました。

### 山元区間におけるトレッキングイベントが開催されました

6月23日、みちのく潮風トレイルの全線開通を記念し、「みちのく潮風トレイルを守ろうin山元」が開催されました。

このイベントは、NPO法人みちのくトレイルクラブが主催し、自然豊かな山元区間のルートを体感してもらうとともに、利用者が安全・安心に通行できるようにルート上の状態確認と整備を兼ねて開催されました。

イベント当日、町内外から参加した26人は「明通峠(深山山頂)〜深山山麓少年の森」へ抜けるルートを歩き、太平洋と蔵王連峰の眺望を楽しみながら、通行の妨げとなる草木や倒木を撤去するなど、整備作業を行いました。



▲ルート上の枯れ木などを撤去しました



### ■各区間のルート情報

<http://tohoku.env.go.jp/mct/route/>  
(リンク先は環境省ホームページ)



### みちのく潮風トレイルルート紹介



「名取トレイルセンター」  
(トレイル全般の情報発信窓口)  
☎022-398-6181